

山崎 純醒 氏 著作紹介記事

「義経北紀行伝説」探る

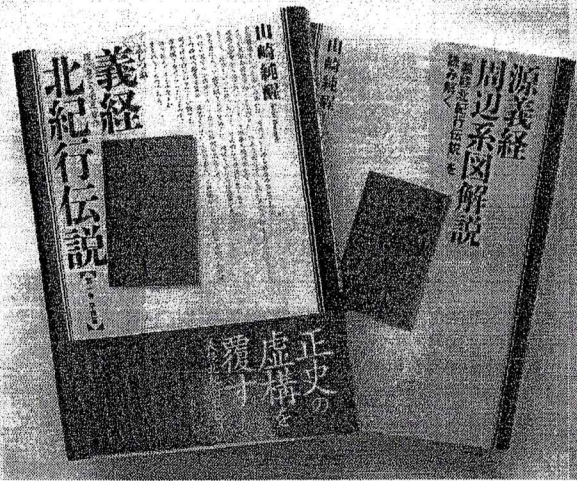
紫波町の歴史研究者 山崎純醒さんの平泉との関わりで

紫波町の歴史研究者 三陸、下北、津軽に残る「義経伝説」をたく
 経北紀行伝説」が、東
 京都の批評社から出版
 された。源義経が衣川
 から北方に落ち延びた
 伝説を文献に当たり、
 現地取材に推理を加え
 て検証した。平泉から

山崎さんは山田町生
 まれ。紫波町在住。40
 歳で脱サラし、エッセ
 ーなどを寄稿しながら
 史を研究している。2
 009年に日本で唯一
 の義経北行伝説を研究
 する団体の「義経夢の
 会」を設立し、史跡探
 訪などを企画してき
 た。

主張したいのは、義経
 が衣川で自害せず、し
 っかり生きたといいこ
 とである。それは文献
 だけに頼らず、多くの
 伝承者に接し、また証
 拠を見せられ、じかに
 現地を探索して得られ
 た、筆者の確かな結論
 である」と主張する。

義経は平家を討った
 後、一族の内紛で追わ
 れ、奥州藤原氏の滅亡
 も招いた。山崎さんは
 「義経が平泉を去るに
 あたって、数々の計略
 が施されたことは件の
 ことでも明らかである
 が、その義経が何より
 心を痛めたのは、当然
 奥州藤原氏の行く末で
 ある。もし、自分を逃
 したことが頼朝に知れ
 たらどうなるか。烈火
 の如く怒った頼朝が、



「義経北紀行伝説」と「源義経周辺系図解説」

「義経北紀行伝説」
 は山崎さんの研究の集
 大成。本編と、資料編
 にあたる「源義経周辺
 系図解説」の2巻から
 成る。本編「第一巻平
 泉編」は平泉を起点と
 する源義経にまつわ
 る「頼朝の奥州攻めと
 平泉の運命」「頼朝の
 野望と奥州藤原氏の実
 像」の5章立て。

謀反への制裁であると
 の旨を振りかざし、
 大軍と共に押し寄せた
 ら、藤原勢はひとたま
 りもないだろう。苦惱
 まさに極みに達した義
 経は、「ここで次なる苦
 悩の決断を下すのであ
 る」と述べ、武将の苦
 肉の知略を見いだす。

文献と伝承を両輪
 に、独自の史観を構築
 した山崎さん。社会構
 造といった面から見れ
 ば、歴史はいわゆる勝
 者の歴史である。それ
 が真実の歴史でなくて
 も残るが、敗者の歴史
 はそれが真実を伝える
 ものであっても次第に
 歴史から消されていく
 という側面も無視でき
 ない」と、正史の裏に
 秘史をあぶり出す。

「不思議なことに、
 伝承というものは、実
 だけでは伝わりにくい
 話でも、虚実織り交ぜ
 ることによって、語り
 伝えるエネルギーが生
 まれてくるのである」と、
 読む者に探究心を
 かき立てる。

A5判326頁、定
 価2800円。周辺系
 図解説は1700円。